

M12a

## ようこう SXT と $H\alpha$ コロナグラフの同時観測によるプロミネンス突然消失の統計的解析

殿岡英顕, 松元亮治, 宮路茂樹 (千葉大学), S.F. Martin (Helio Research), R.C. Canfield (Montana State U.), 柴田一成 (国立天文台), A. McAllister (HAO), K. Reardon (Osservatorio Astronomico di Capodimonte)

我々は ハワイ大学 Mees Solar Observatory の  $H\alpha$  コロナグラフで観測されたプロミネンス突然消失現象を Eruptive prominence, Quasi-eruptive prominence, Disappearing prominence の 3 つに分類し、ようこう SXT での観測結果と比較することにより、プロミネンス突然消失のタイプと軟 X 線構造の関係を調べてきた。これまでに、プロミネンス突然消失現象 10 例について解析を行ない、Disappearing prominence 現象は軟 X 線で起きる現象とは関連が無い事、さらに典型的な Eruptive prominence に分類される 2 例の定量解析の結果を発表して来た。

今回は統計数を上げるべく、再度ハワイ大学 Mees Solar Observatory で観測されたプロミネンスを網羅的に調査、分類し、ようこう SXT での観測との比較を行った。今回の調査では期間を 1991 年 11 月上旬から 1992 年 12 月上旬までの 13 ヶ月を対象とし、 $H\alpha$  で観測されたプロミネンスの物質が上昇もしくは落下して移動しているイベントを取り上げた。期間中に観測されたイベントは総数で 77 例あり、そのうち上昇する物は 32 例、落下する物は 34 例、上昇してから落下する物は 10 例、落下したところから上昇する物が 1 例であった。これらのうち、前回の解析で取り上げたイベントは 6 例含まれている。ようこう SXT との比較は現在の所、現象の時間と大まかな位置で行ない、上昇するもので 14 例、落下する物で 2 例をようこう SXT で観測された現象と関連があると判断した。

発表では主だった個々のイベントの解析結果を交えて、プロミネンス消失現象の 3 つの分類と軟 X 線での観測について統計的な考察を行なう。